

APA1-5/SB48における論点

平成30年4月
外務省気候変動課

COP24におけるパリ協定の実施指針の採択に向けた交渉の推進

- COP22において、2018年中にパリ協定の実施指針を採択することが決定された。
- COP23においては、差異化や各議題の範囲を拡大しようとする動きを巡って意見の隔たりがあったものの、「NDC(2020年以降の温室効果ガス削減目標)」、「透明性枠組み」、「グローバル・ストックテイク」、「適応」、「市場メカニズム」、「資金」等各分野の議論の進捗状況に応じ、指針のアウトラインや要素が具体化された非公式ノートが作成された。
- 今次会合において、パリ合意のマンデートを維持しつつ、COP23で作成された非公式ノートをもとに、パリ協定の運用を可能とするような実施指針策定に資するテキスト案作成に向けた技術的議論を進めていく。各議題における差異化や範囲のほか、議題の間のリンケージが重要な論点となってくるところ、全体としてのバランスに留意しつつ、交渉に臨む。

タラノア対話の実施

- COP23において、議長国フィジーのリーダーシップの下、温室効果ガスの削減に関する世界全体の努力の進捗状況を検討するタラノア対話(※)のデザインが完成した。本年1月より、取組を評価するための情報収集を行う準備フェーズが開始、今次会合では、第一回対話が行われる予定。
- 本年4月、日本政府は、これまでの実績、目指すべき将来像、今後の取組に関するサブミッションをUNFCCC事務局に対し、提出した(<http://www.env.go.jp/press/105410.html>)。
- 今次会合では、グループ討論等が行われるところ、「コ・イノベーション」(相手国、日本政府及び関係主体の協働により、相手国に適した製品・サービス・技術の市場創出と経済社会システム、ライフスタイルの大きな変革をもたらす双方に裨益する関係)及び水素や蓄電池、CCUSといったイノベーションを中心に、我が国の取組を積極的に紹介しつつ、COP24に向けたインプットを行う。

(※)促進的対話。議長国フィジーの提案により、COP23において、フィジー語で透明性・包摂性・調和を意味する「タラノア」が使われることが決定した。

タラノア対話に関する日本のサブミッションの概要

●Where are we?

国内の緩和対策の着実な進展
 「ACE2.0」に基づく途上国支援
 コ・イノベーションによる国内外の大幅削減

●Where do we want to go?

日本の中・長期目標の達成

●How do we get there?

イノベーションによる国内での大幅な排出削減の推進
 コ・イノベーションが継続的に創出される国際協力の推進

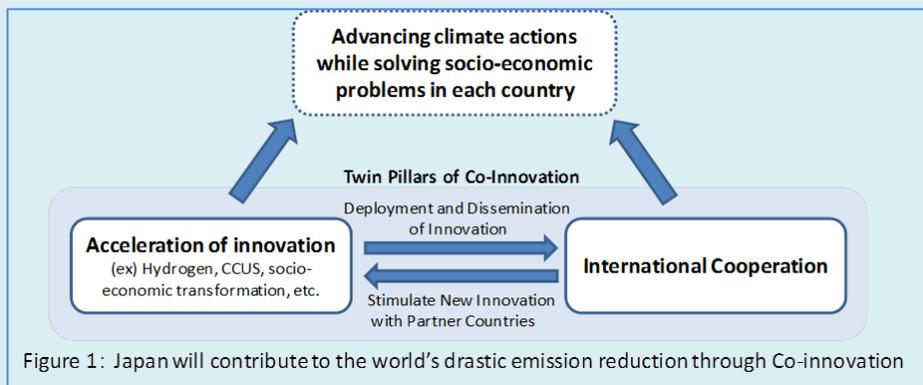


Figure 1: Japan will contribute to the world's drastic emission reduction through Co-innovation

気候変動に関する主要な国際会議の日程

- 5月 APA1-5/SB48会合(於:ボン)
- 6月 ペータースベルグ気候対話(於:ベルリン)
第2回加・EU中国主催閣僚会合(MOCA)(於:ブリュッセル)
- 9月 国連総会の際の気候変動関連会合(於:NY)
- 10月 プレCOP(於:クラコフ)
- 12月 COP24,CMP14/CMA1-3,APA/SB会合, タラノア対話(於:カトヴィツェ)